



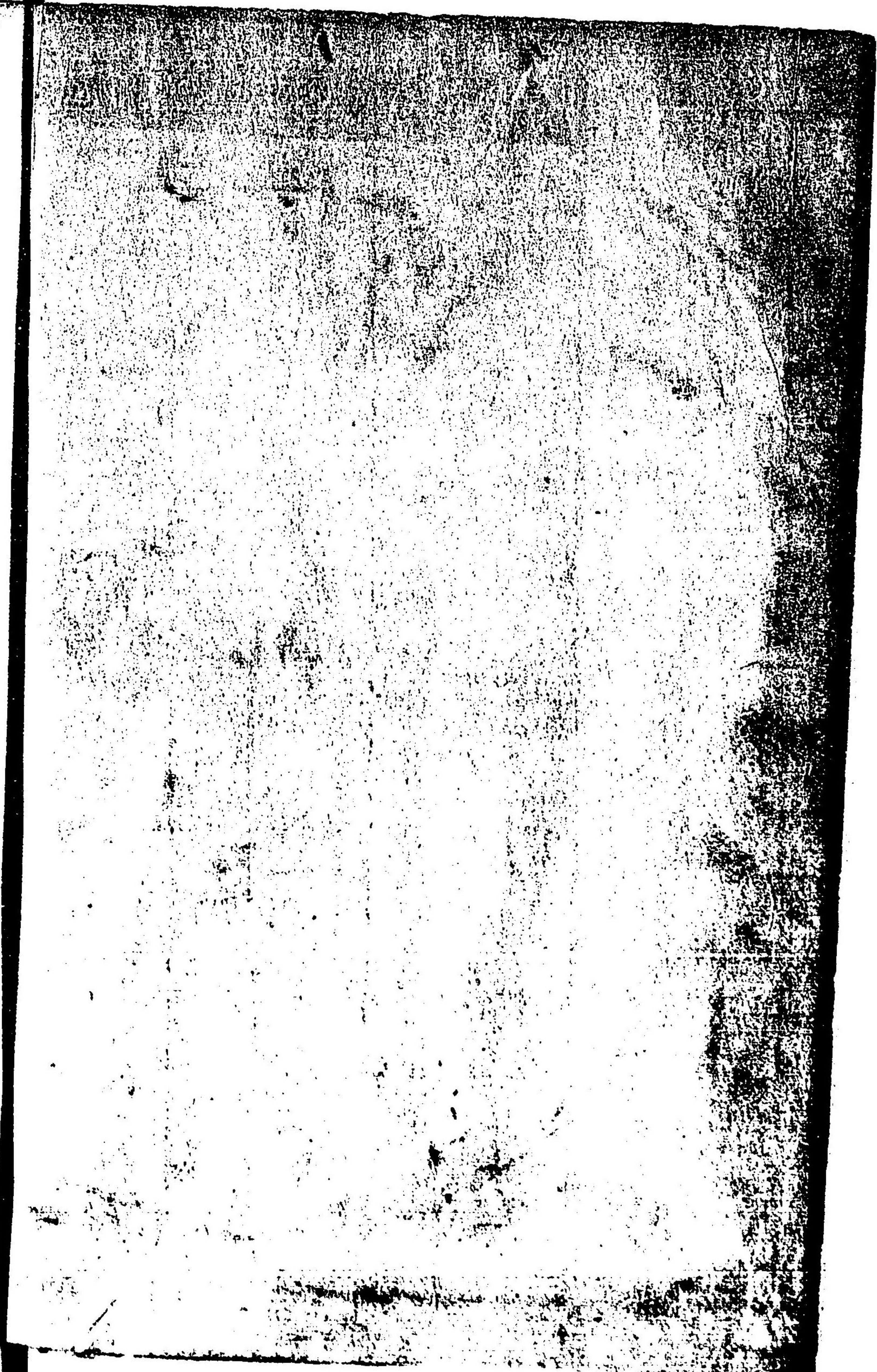
五
あ
ん
つ
う
く
さ
ん
く
ち
へ
ん
ま
き
の
く
繪本通俗三國志七篇卷之九

目録明治十年交換

文
騫
一
騎
破
魏
兵

姜
維
洮
西
破
魏
兵

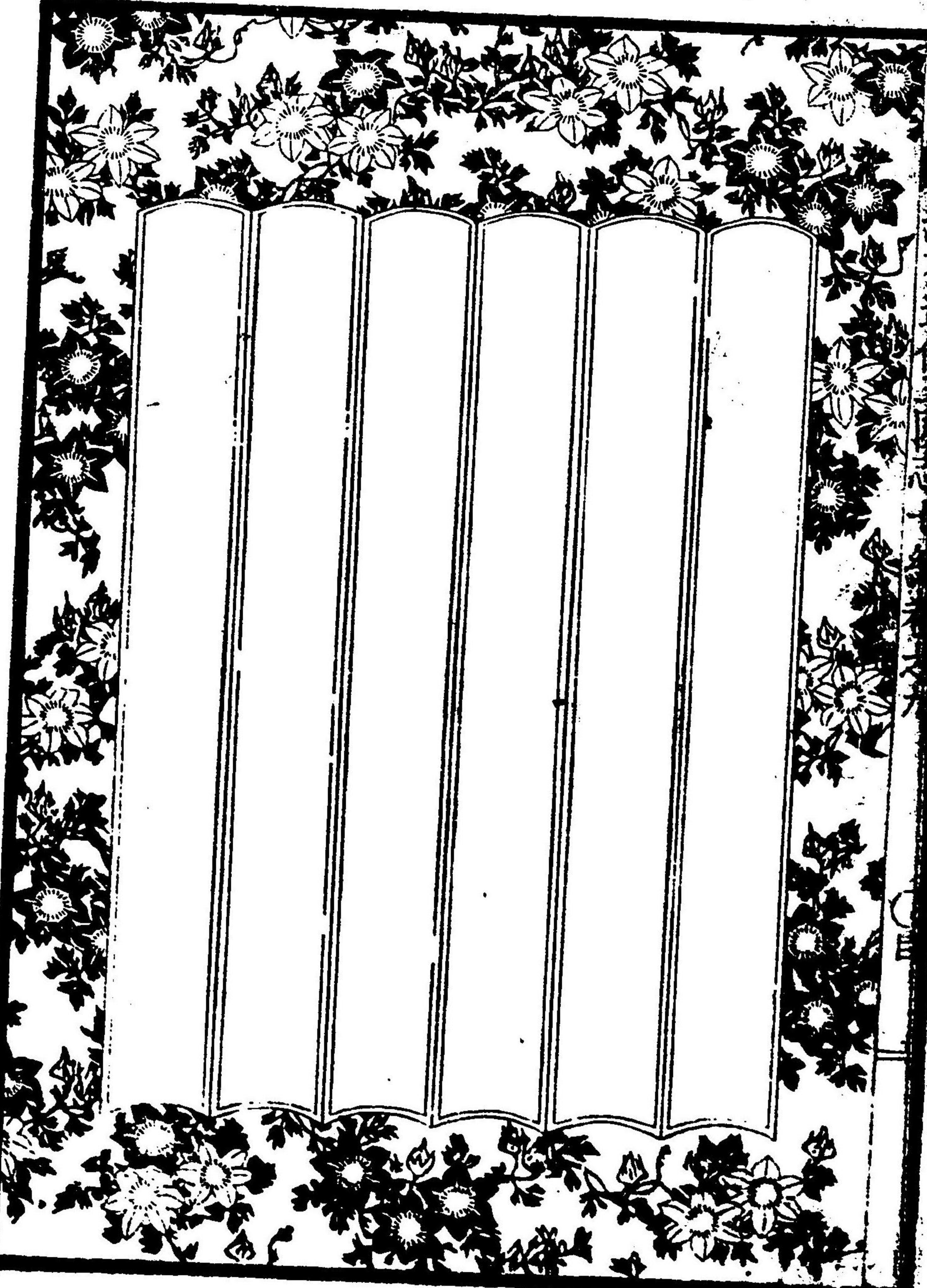
鄧
艾
段
谷
破
姜
維



繪本通俗三國志七編卷之九

文鸯一騎破魏兵

魏の正元二年春正月揚州の刺史鎮東將軍母丘儉字子
仲聞といふものへ魏の仕と功勞多く淮南の軍馬を
控調けるが司馬師兄弟みだりの逆威を震て魏主曹芳
と廢せる由をきいてこの内をあらがひ怒り魏將をあらが
此事を議するも長子母丘儉やける司馬師みだりの權を
執る國家の危きと累卵のごとく父の死の固を掌たる
ふ争坐らうんで居りしとき早忠を思へて國家を二回
とける母丘儉大まらるるに我も右をあらがひ好もした
として刺史文欽を招く計を議す文欽をト曹爽が



下の賓客たり。曹爽とて司馬懿を殺すとて、後主の
もと下居て元より司馬師と睦くらば、母丘儉流して
やける。司馬師兄弟もろくも権を專らして、近比まで
天子を廢し、天下を奪の志あり。我々魏の恩を受く。坐
ら視るよ志のびだ。日夜の事と嘆き。文欽が曰く、將軍
あの石の固としく、若義兵を起し、賊を討つ。某福
か命をさして助べ。況や愚息よ。文淑小字と向蒼
とやの馬の上よ。長き鉄の鞭を使い、萬夫不當の勇の
り。常は司馬師兄弟を殺して、曹爽の讎を報せん。とある。
速う兵を起し、某先手よとて、母丘儉を討つ。とて
喜び酒を飲ぐ。誓をとり、郭太后の詔を受たなり。と

汰。淮南の將士とあり。壽春城の楯籠り。西の方高臺壇
で繁き白馬を殺し、血を飲り、誓をたし。やける。司馬
師兄弟もろくも権を專らして、大逆無道としく。天下を奪ん
と。是の母丘郭太后の詔を、義兵を起し、國賊を滅ん
と。皆く忠を尽くし、國を報せよと。上下心を一つ。要
害を固く守り、母丘儉のみ。六万余騎よ。項城陣と
とり、文欽の二万余騎よ。遊兵とあり。弱くらん方を救ん
と。この司馬師の左の目の下よ。入る瘡あり。何れも
痒く痛ける。忽ち早馬急を告ぐ。母丘儉謀反と。遂に
淮南を騒動と。告げ。瘡の内に志なり。痛
痛む。乃ち函者とり、瘡の口を切。瘡を傳ぐ。二三日

司馬懿の病状



て構へ諸大将と計て義さるる光祿勳鄭褒曰く母丘儉の
計を好ども事情は違はば文欽の勇めりて計する。今味
の大軍その不意に生は淮南の勢銳氣盛より一撃を
とどくらば只よく陣屋を要害に造り壘を高く塹を深
敵の銳氣を挫くべし。是亞夫が妙計あり。監軍王基が曰
南の騷動はもとより軍民の謀えよあらば只母丘儉一人
さすに勢ひを怕とく其さるるのちなり。若の味方の大軍
やうに進むらば其の瓦のごとく解て尽く乱るべし。司馬師が
曰く王基が計はもろ意を合へりといふ自ら兵をさして
の橋の上は陣をとるけしむ王基が曰く南領の地の第一の要
害よりく陣をとる便あり。早く勢を分て守り人若延

引せば敵もあらば取ん。司馬師は志を合ひ乃ち一手の勢
て王基に授けく。南領の城下は陣を張し去程母丘儉
の項城ありて討手のむくよとて謀將と計て義
けしむ先鋒葛雍が曰く南領の地の山は依水に依り
要害あり。魏の勢も一是とらば急破ると難く入す
みちの兵を遣し母丘儉の兵を従ひ自ら兵を打
向ふ南領の守手大勢をく陣をとるめと告来けしむを何
奈まど敵の陣ありんとて自ら馬をさして望見し
敵の陣四方に連ひていらくの旗風をひるがへりけしむ
よまどろひて立ころるを後より早馬きたり。吳乃大将
孫峻の騷動を聞て虚をのめて江を渡り。今壽春城

會大夏三十四

ると告げし母丘儉色して失て曰く。壽春は我が根本也。若
吳の勢を取らば我何より身も安んぶべきと。夜中
項城までせし回り。勢を分ち、吳の敵と拒ぐ。司馬師は母
丘儉が志のぞきたる由をき。諸將と計を議しければ尚
書傳報せける。只今母丘儉一軍もせざ。志のぞきたる人
吳の勢の後を攻めて怖れて入り、項城は回り、二手はわら
せとく壽春を救べし。味方兵と二手は分ち、一手は樂嘉城を攻
め、一手は項城を攻め、一手は壽春城を攻め、敵の勢度を失は
せ、乱るべし。充及の刺史鄧艾は智深計多もの急ぎに
よせ、先手の大將とし、將軍及びら樂嘉城を攻た。司
馬師は志を従ひ兵を分ち、三川の城を攻させ、充及へ報せ、池

て鄧艾は文欽を自ら大軍を引く。樂嘉城へ打む。六の
母丘儉は項城をありて勢を分ち、吳の敵と拒がせ不時
人をして遣はし、樂嘉城の様を伺はし、心の内魏の勢のき
よ來りて攻めんとして怖ると、文欽は來りければ樂嘉
城は味方第一の要害なれども、救はむべき大將あり。若魏乃
勢を分ち、やうに來らば如何せん、と議する。文欽が曰く、御心
やましくおのひの愚意をどうも召具し、五千金騎を以て之を
守らん。母丘儉針は喜び、文欽父子を以て賞して、五千
余騎を分ちむ。己は半途まで出けると、是亦候の士卒
走りきたり、樂嘉城の西は魏の勢陣をとりて、一方あり、
ての中軍は白虎黃鉞を立と、虎帳の内は帥の字を書

る錦の旗あり。されどつらつら司馬師まらん。今陣屋を造り
と告げし文鴛生年十八歳身の丈八尺鉄の鞭をひひ
て父が側ありけしが只今の注進と聞くとけり。魏の勢
長途を疲れて陣屋の要害いぬと備らば今も一手を合
れてさると討つべ味方あどる勝ざらん今夜の昏方より打
立とて父の南より蒐り入某の北より向はん然るとは夜
の三更の敵の陣に到るべし。文欽さるとは徒らに五千余騎と
二手を配けし文鴛のまがひく鎧と腰に鉄の鞭をよけ手は
鎗を提げし昏方より父子左右に分れと推寄る司馬
師へふがうら。樂嘉城ちうく陣をとりにて兗州の鄧艾が
勢であのちで来るを待居たり。目の下なる瘤志のりよ

で堪がたりけし夜よ入の鐘たる精兵お百人とつら
よ立と守らる痛と志のんで居たりけり夜とて三更の
比よあよんで陣屋の北よあつて映の色むむと起けれ
ば何事ぞと問と一人走り来りて曰く一手の敵軍北の
方より推よせ真地暗と突く入る真先よと一人なる一人
の大將その勇あたる家ののちく味方おとく殺されたり。司
馬師色を失ひてんの内火の焼るごとく目の珠とてでよ
瘤の口よりちとぶしり生血あがれて泉のごとく其痛たぐと
りらども諸軍の乱とんとと怖と被の端を咬と。歯と
切り痛と志のんで被らみ咬爛よけり北の陣中文鴛
人よ攻破られて魏の勢とんと乱と我とんと中軍

魏の勢とんと乱と我とんと中軍

落ち入り本陣も上と下へと登ぎけしと司馬師も下
知と傳ぐと安りも動くものへ斬る奔人と解たりし
又陣中少し静りけり。文鴛は二千五百余騎は
陣の真中よりけり。左へ馳立右へ追おひけ。四方八面を切
て廻る。魏の大勢前後も度々失ひたまく出向りのも文
鴛が鉄の鞭も頭で微塵も碎く死せるもの麻のじし文
鴛の内の父も乗ると相待四五度が程中軍も討ち入
火をちらして戦も魏の勢も破られし。鏃を調へ射た
りし。又兵とさめし引又蒐入の戦ひ直も殺しと曉
方に至り忽ち北の方より鼓の音も天もひいて一手の勢も生
まけし。文鴛左右より入りし父も南より寄りし。今

北より来るもの何故ぞとて自ら馬を止しとる。鹿
の軍馬その勢も猛風の如く真先も進んたる大將も義
陽棘陽の人も充刃の刺史鄧艾字は士載あり。刀を横へ
大音あげ反賊逃るしとあられと叫びけし。文鴛馬を
交へて五十余合戦も未勝負も分ざぬ。司馬師が勢
後より蒐し。文鴛小勢も前後も顧るし。あなは
は乱れとて逃走る。文鴛はあや。鄧艾と戦ひける。四方も
味方といふもの。右への叶す。あなは只一騎も生
て走けし。千の敵軍打止んとて追来る。已も樂
の橋近くありて追手の勢も集りけし。文鴛
忽然と馬を回し敵の群立たる真中へおめし。蒐

會入軍三國志

入り鉄の鞭をふる揚ぐ。統打は打けよ。真先は進んごま
敵七八騎馬と共に打居られ残る勢は紛々として逃走
文鴛又志がくくと回りけよ。魏の勢は全く集り此人を
騎はが大勢と志のぞけたる。四方より罍んで擒せよと
て又群立く追蒐る文鴛勃然として大に怒り汝亦鼠
の輩命へおしく思ぬ。うしひまよ。鉄の鞭と振て蒐入二
三十ダ程打けよ。或へ尻居よとみと打居られ中天ふん
ど打奉られて尽くたれと引く敵引へ文鴛志がくと馬
てあもませ敵近付は追散す。七八度が程回しけよ。魏乃大
將もその怪力比類おまよや怕るなりけん。卒に尽く退き
けり。父の文欽は昏方より出けるが山路の險阻は行り

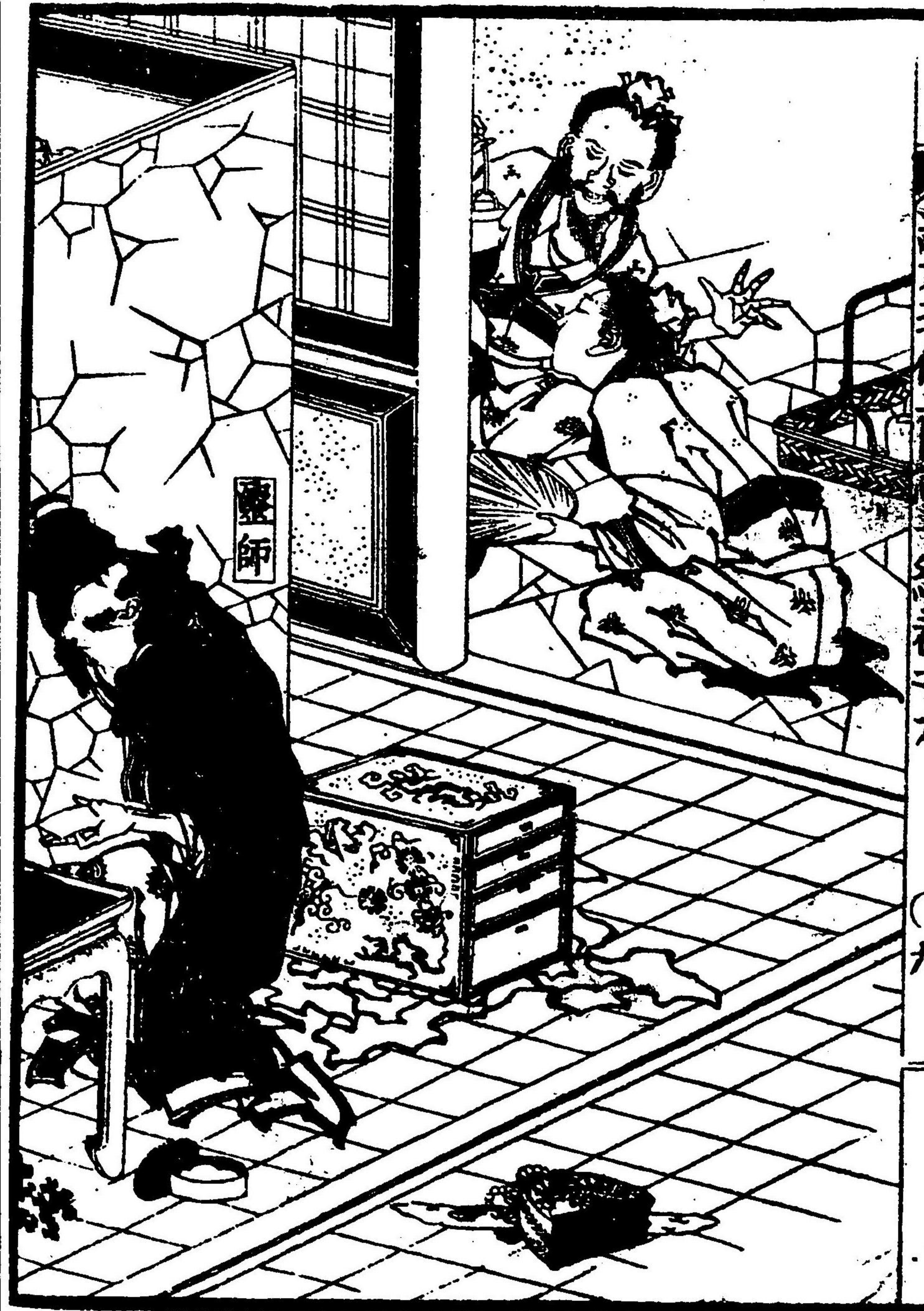
迷く谷の内へ入り。終夜路を尋ねて曉までおよびける。爰
みてよろこばせや。魏の勢打勝る。文鴛は行方志り。矢と
中けよ。急よ。志のぞるんとする。魏の勢後より攻来ぬ。
文欽大よ。まどろき。一方を打破りて。壽春城をさして走
る。後より文欽刺史志づらく雷の入とよ。ざるものあり。
文欽さる。昔曹爽が門下の客なり。尹大
目といふもの。尹大目の本より曹爽が恩顧をば。文欽と
共事し。曹爽をて。司馬懿を殺さして。後文欽を准
南に流浪し。尹大目は已とて。司馬師は佐。下
司馬師が瘡の痛をあら。けよ。近内は。死。下
と量り。且曹爽が恩を報せんと。司馬師に見て



司馬師
 取下一層を
 患々軍務を
 廢す

司馬師の病室

九



司馬師の病室

九

中けぬ文欽の元より。謀及の輩あり。母丘儉より
らへれ是非あくして其さるもの之。某行て味す。降らしん
司馬師志り。と許しければ。尹大目馬と飛く。追
來り。蓋を却ぐ。鞍より。天音あびて。文欽刺史の夜日
の間。あつし。止りの人。とよがり。けぬ。文欽の意。てさる。後
汝へも。魏の大恩。を受あ。ら何ぞ。司馬師を助けて。天下
を篡んと。ふさる。ぞ。て。弓を。扱。矢を。放。ち。馬を。飛。く
去。け。と。尹大目。と。さ。ま。き。や。う。さ。く。世。事。破。た。り。と。嗟。て。ず。
一。と。文。欽。敗。軍。を。引。く。壽。春。城。へ。入。ら。ん。と。さ。ら。ば。敵。の。勢
も。入。替。て。諸。葛。誕。が。旗。あり。又。項。城。へ。入。ん。と。さ。ら。ば。胡。遵
王。基。鄧。艾。が。勢。が。雲。霞。の。下。く。攻。來。る。此。より。て。身。を。な。く

び。き。る。あ。り。つ。つ。つ。卒。と。吳。又。行。く。孫。峻。も。降。参。と。母。丘
儉。も。項。城。へ。あり。く。壽。春。城。も。破。れ。文。欽。も。落。西。き。樂。嘉
城。も。降。ぬ。と。さ。る。カ。を。失。る。大。軍。三。方。より。推。寄。せ。告
げ。と。自。ら。城。を。出。く。陣。を。と。る。一。番。も。鄧。艾。刀。を。ま。へ
て。出。け。と。母。丘。儉。が。大。將。葛。雍。鋒。を。ま。ど。へ。て。只。一。合。も。斬
て。落。さ。る。魏。の。勢。勝。の。の。て。三。方。より。攻。け。と。母。丘。儉。の
の。ち。を。弃。く。戦。と。の。人。ども。其。勢。が。及。く。落。失。く。僅。も。十。騎。あ
り。と。打。た。され。逃。去。く。慎。縣。城。へ。落。け。れ。バ。城。を。守。る。大。將
來。白。と。の。人。の。酒。宴。を。設。け。く。と。も。其。夜。ひ。ひ。と。皆。死
て。司。馬。師。も。降。け。ぬ。是。より。淮。南。平。定。し。け。れ。は。魏。の。勢
の。よ。く。重。り。け。る。人。諸。葛。誕。を。征。東。大。將。軍。と。封。じ。て。魏。の

の軍馬をどぶとせ。諸郡の守の勢を置く。呉の勢も衰
ぞき。つらつ卒。大軍を収て洛陽を回ける。

姜維洮西破魏兵

去程。司馬師淮南を平げ。許昌まで回りける。膺乃
痛く。重く。毎夜夢ともち。現ともち。李豊張
緝夏侯玄床の前。立見とて。さびら。離とさ。し。心
神悩乱。命も。己。あ。命。く。ち。あ。ぬ。是。よ。り。て。洛
陽より。弟の司馬昭と。又。福。ま。よ。せ。く。や。け。る。の。我。の。天。下
の。執。権。と。し。て。其。重。く。千。斤。を。負。か。ま。じ。自。ら。凶。と。ん。と。な
の。と。れ。ど。も。能。く。致。よ。く。心。を。し。く。謹。戒。お。朝。廷。の。大
事。と。ら。る。ら。ぬ。他。人。に。託。さ。る。と。あ。る。れ。か。一。も。他。人。に。託。さ。る。一

族滅亡の禍と。ち。と。ま。き。と。と。て。跡。の。事。と。も。ま。く。云。置。大。將
軍の印を渡して。涙をまろく。流。き。と。夜。ひ。て。叫。ひ。け。る。
が。膺。の。口。より。眼。睛。を。と。り。出。さ。る。死。た。り。け。る。時。に。正。元。一
年。二。月。ち。り。此。に。於。て。司。馬。昭。大。権。を。執。り。薨。て。葬。
の。礼。を。あ。げ。魏。主。曹。髦。の。由。と。ま。く。急。ぎ。使。て。り。て。東。國
の。ま。ど。静。あ。ら。ぬ。暫。く。許。昌。に。陣。を。と。り。禍。の。本。を。除。く。べ。し
と。司。馬。昭。が。下。知。り。け。る。司。馬。昭。の。内。い。ぬ。と。死。す。
る。も。も。鍾。會。や。け。る。人。の。い。ま。ど。安。ら。ぬ。早。く。洛。陽。に。入
り。の。人。朝。廷。を。変。め。ら。ぬ。悔。も。及。ま。ず。司。馬。昭。は。ま。り
て。兵。を。率。て。洛。陽。へ。回。り。け。る。魏。主。曹。髦。が。上。に。陣。を。大
よ。ま。ど。ら。ぬ。司。馬。昭。が。命。を。用。ひ。て。大。軍。を。率。て。洛。陽。へ。

るの何故ぞし。義一は且び大尉王肅が曰く。別の仔細はば
とて大権を執る。陛下の封爵を加ふ。其心と安らうし
の曹髦と且び従ひ乃ち王肅を使として大將軍録尚
事封しけまば司馬昭朝を生く恩と謝し此より天下
の政も司馬昭が計たり。此由蜀の國も入けまば姜維
すあらち。後主劉禪も奏してやける。司馬師とて亡びて
司馬昭又権を專らまの臣はあはれ。此とたのめて魏を
伐再び漢室を興さん。後主志うと。勅許ありしに
姜維又漢中へ出く用意とせらる。征西將軍張翼諫く
曰く。我蜀の國へ元より西僻の地より金銀も兵糧も乏
おけまば遠く出く戦ごも國の費民の哭まはれ。きつて

害と堅く守りて軍民を恤する。是とあはれ國と保の計を
らん。姜維が曰く。昔孔明いまだ草の廬へ出きて
己も天下を三分するの計と定め卒に身足りの形とあは
れ。後主六度まで祁山へ出く。魏を伐けり。中原を伐
復し。漢室を興さん。志のひま不幸なり。中道に亡
びの入り。今も武侯の遺命を受まると忠と尽して國を
報さん。死とも豈恨あらんや。今司馬師あらん。何の時
びて。魏の君臣あはれ。若しは伐さん。何の時
とる期せん。と自ら五万余騎を打ちけり。復侯景
けり。馬超も兵を率へ。枹罕より出。西南を
攻取。諸郡尽く定む。張翼が曰く。前々の軍も

下知しければ是と聞く。張明、花永、劉達、朱芳を令どし
る。一人當千の兵ども、左右に分きて打く。蒐る姜維、鎗
と拵と暫く戦ひ、詐負て走りければ、王經勝への門と大
軍と馳て追蒐る。姜維をてど、洮水の辺まで走り、ぞき急
馬を引回し、く味方の勢をさし、ゆるゆき後、水ありて、事急
あり。命をたてて戦へと呼び、自ら喫く、駈入け、蜀の勢
尽く取く回し、其鋒めたる、魏の勢まかり立られ
た。乱えて走ける。張翼、夏侯霸、二手に分きて路をさ
ぎり。一騎もあらずと取らむ。姜維、勇を振て、左に突
恰も電光の激さるがごとく、ちりちり、魏の勢討るもの
志らば、互にみづから暴乱し、水中に落ち死せし。王經

く、圍て出く。僅に百騎あり、討たされ、秋道城とのどん
で落て行。姜維十分、打勝く。討取たる、首二万余、洮水
の濱に象、双と、認軍、恩賞を施し、直に秋道城を攻め、
張翼、又諫て、やける。將軍をて、洮水の戦ひ、勝た
まひて、威声四方に震る。功と、師を収て、國を
回り、又秋道城を攻蒐る。ひて、力、まぐり、まぐり、
は是功も、亦、廢る。一、と、画、蛇、添、足、の、喻、あり。姜維が
曰く、志からば、向し、味方の打負なり。時ど、も、敵、進
ん、中原を、と、らん、と、ん、沈、や、今、洮、水、の、合、戦、敵、の、勢
、大、に、討、た、て、王、經、膽、を、冷、し、蒐、を、失、し、秋、道、城、を、取、と
、掌、の内、あり、汝、銳、氣、を、落、せ、と、ある、れ、と、て、卒、に、兵、を、引



て進發也。是とて魏の征東將軍陳泰ハ雍州に守りて居たり。王經やぶるて狄道城へ落たりし。急ぎ援乃
勢と起さんとする。洛陽より兗州の刺史鄧艾
たり。陳泰やがて對面する。鄧艾やけるハ某ハ司馬
昭の命を受て。まきたりて仇と退んと。某ハ年若して不
才なり。方ハ將軍の教と被らん。陳泰ともあり。雍州涼
州の諸將とあり。今姜維狄道城を囲んで事とせよ
急なり。諸將いりある計。あると問ふ。泰謀楚辭と云
出王經洮水に敗れ。蜀の勢勝る。乘今も一共鋒を
まじへば必も味方勝ると得。只も一險阻と固て出で戦
し。ちくんの蜀の勢兵糧を詰ぐ。のびり退る。そのと

虚の門で追討まき。今仲達が孔明と破し。計ありと云
け。鄧艾もなり。今姜維兵と引く。此計よ
り。今姜維兵と引く。此計よ
地に入る原野。生く鋒とまじへ。一戦の利と貪んと。味方
まじへば必も味方勝ると得。只も一險阻と固て出で戦
し。ちくんの蜀の勢兵糧を詰ぐ。のびり退る。そのと
ど。我量も姜維ハ洮水の戦ハ打勝東南に進んで
洛陽も據兵糧の多き。や。蒐と蒐の勢とまじへ。東の方
関隘とあり。檄と四郡も傳ると。味方大なる患あり。
まじへば必も味方勝ると得。只も一險阻と固て出で戦
し。ちくんの蜀の勢兵糧を詰ぐ。のびり退る。そのと
し。ちくんの蜀の勢兵糧を詰ぐ。のびり退る。そのと
もど攻るも力とむ。費し中も。一落へ

は是をりて姜維が智謀の足ざるを味方いふ高く敗
きるは擲く女と項嶺に陳秘計をりて討つてへ姜維を
ころす足せとむむき是はも客主不同時勢有異の計
を貫く也と云けむ鄧艾大に喜び將軍の計よく其が肺腑
兵を二十隊に備ぐ隊ごとに五十騎の精兵を調一鑼鼓
寨火烽火の類をまがごとく用意し晝の谷の内よりこれ
夜の路をいそぎひそりて狄道城の東南の方より出て高山出谷
の間は埋伏し暗兵の勢をりてころす敵のききたらば鼓を打
鑼ををらして晝のちびにしく旗をあげ夜の鉄砲をひく
寨火を焼て四角八方山を峯より敵のくちをころせと

て二十隊に分ちてみせ其後みづから陳泰とあひく二万
余騎を引く打起け去程に姜維は狄道城を囲んで日
夜攻めども本より究竟の名城を截崖の辺までもち
付得ぬの内退屈して居たるを或日の昏方何とも
志らぬ二手の勢生来り征西將軍陳泰安西將軍鄧艾と
書たる旗ありと告げれば姜維大におどろき夏侯霸をむ
りてやける御辺むく鄧艾の師の大將たらば魏を伐
してあなをころすと云ひしが今鄧艾もて生来り我い
て戦ふ夏侯霸が曰く鄧艾は深く兵法に通じ地理を
よく志する今兵をりて生来る輕く敵をあらば姜維
とあひ張翼を城と攻させ夏侯霸を陳泰と拵がや自ら生

て鄧艾を破らんとて其夜の三更に手配を定めて打立五六里をうり進げしむべ俄に東南の方より鉄砲ひいて鼓の音天の響く山々峯々も寨火と焼烟をあげて四角八方同時の震動しだいにくみどりのまを勢ひよとせしむるに姜維色を失ひしむ鄧艾が計を落されたりとして速に下知を傳て張翼夏侯霸の兵を収めてきりぎりし自ら後陣を守りて次第く退けるが只後より鼓の音吠の音たんとて大勢の追蒐る体之けしむを劍關まで退いて始て二十余りの寨火のひまを空く報し計ありと悟り再び兵を出生さんとせしむるに諸軍故郷とあひみて敵心箭のてくちりけしむ卒に漢中まで回る鍾堤の陣を取去る度夜中よりきりぎりきたりども敵軍より二人一騎とも損せざる

た成都より勅使きたり先は洮西の軍に功ありとのめて天子みことのりして姜維を大將軍の職に復しよんと告げし表をよりと恩を謝し又師を出生さんとて諸大將を集めて計を議す

鄧艾段谷破姜維

姜維を破らんとすまのぞきければ王經狄道城を出入り陳泰鄧艾をいへ入る酒宴を設けて慶むのべ大に三軍を賞しければ陳泰とあひち鄧艾が功を録して魏主は奏を曹髦よりとて司馬昭と相議し鄧艾を安西將軍東羌校尉に封じ陳泰と共に雍及涼及の軍馬を領せしむ鄧艾表をよりと恩を謝しければ陳泰酒をすくめて賀して曰く姜維破る

夜中よ逃去り。必らば氣力と墜して再び来ら。鄧艾が曰く。洮西より王經の敗軍。いまあらば兵と損。大將を討れ。百姓騷乱。一と殆んど危亡に至らん。姜維。夜中よ退きたるも。一人も兵と損。我が量。姜維が必らば出まこと。五の。陳泰が曰く。移るるに聞ん。鄧艾が曰く。蜀の勢。あつた。い。ど。も。実。勝。の。る。勢。の。り。我。勢。の。洮。西。を。破。り。て。去。る。べ。し。れ。怖。る。是。の。あ。ら。ば。出。ま。さ。の。一。さ。り。蜀。の。勢。の。孔。明。が。時。より。軍。を。馴。て。蒐。討。調。練。し。た。る。精。兵。さ。り。我。勢。の。國。の。堅。め。の。り。勢。の。よ。く。武。具。あ。ん。ど。も。完。く。ら。ば。大。將。の。不。時。よ。あ。ら。た。め。換。て。萬。案。内。と。あ。る。の。の。ま。り。是。の。あ。ら。ば。出。ま。さ。の。二。さ。り。蜀。の。勢。多。く。舟。路。より。出。ま。る。味。方。の。兵。と。陸。路。よ。運。ぶ。人。馬。の。勞。逸。同。じ。ら。り。

其のあつた出まき三のさり。狄道。隴。西南。安。祁。山。の。路。を。み。ま。守。戦。の。地。より。蜀。の。勢。の。孔。明。の。路。より。出。ん。も。志。り。が。じ。或。も。東。と。討。体。と。と。せ。て。西。を。討。め。の。り。南。より。出。る。体。よ。て。却。て。北。より。出。ま。の。り。味。方。の。兵。と。分。く。路。を。守。り。し。蜀。の。勢。の。た。び。一。手。よ。あ。つ。て。一。手。より。攻。ま。る。味。方。の。勢。の。弱。く。敵。の。甚。盛。ん。と。れ。ら。あ。ら。ば。出。ま。き。の。四。の。さ。り。蜀。の。勢。の。南。安。隴。西。より。出。ると。え。の。美。の。國。より。兵。糧。と。と。ま。び。若。祁。山。より。出。ると。え。今。來。乃。熟。せ。る。時。さ。り。是。と。取。て。糧。と。せ。ん。是。必。ら。ば。出。ま。き。の。五。の。姜。維。の。孔。明。が。兵法。と。傳。へ。智。謀。の。り。の。あ。ら。ば。必。ら。ば。再。び。討。て。出。ま。と。云。け。ば。陳。泰。手。の。り。て。額。を。撫。朝。廷。の。り。又。浩。る。異。人。の。の。國。よ。出。ま。る。上。の。蜀。の。勢。の。怖。る。よ。足。ら。り。



姜維王經
戰勝て首
万余級を
泚水の濱
に梟す

て此より鄧艾をうやまひ交と結人ぞ忘年の友とある。鄧
艾をあるや雍涼の兵とありて陳法と調練し、魏方の攻口を
守りければ陳泰とてよく法あるとてて、喋服してよく敵
をのした姜維へ鍾堤と庫と居く。酒泉と表け。魏將とあ
りて魏と伐の計と義とある。一人とて又出く曰く大將軍と
なく師と生して未功とある。先日洮西の戦と魏
の勢と討とて皆その威と怖る。今又師と生して一先
ちあるとたれ。魏軍の心乱る。曹軍民と悦と人ぞ時乃
至ると待とえ。魏人あるととと孔明が今史たり。樊建
字の元長あり。姜維が曰く。御辺の魏の國地寛く人多くと
まうと滅しがたうらんと。今とて志のと却て魏と伐と味方

と五川の勝利あるとととある。魏人ぞか問て曰く。反の勝
利と如何あると。姜維が曰く。魏の勢洮西とておびとく
亡びて甚と氣かと先へり。我夜中と志のぞくとと兵と人
も損へば若い師と生して勝へまのあり。味方の無路より
ととんで勞とあるととと。敵の陸路より来く。長途と疲る。その
勝へまの二のあり。味方の勢へくく軍と馴く。蒐引と調練せ
り。魏の勢へ俄と魏方より。鳥のどくと集たる兵と。隊伍
とこのへま軍と法度と。是勝へまの三のあり。魏の勢の攻口
と守る道條とあり分れととと。魏と分く十方とあり。味方が
たぐ一手とありて進む。その勢へまをへ盛とあり。勝へまの
四のあり。我いま祁山と出く。來の熟せる時あるは是を取と

蜀漢書卷之四十五 魏志第五十五 姜維傳

兵糧の資とせ人、是勝なきの五つあり。此とたり。魏に伐ぐべし。
ら。何の時ぞ期せん。夏侯覇が曰く。鄧艾八年若とせども、
深く計は通じ。等閑の敵はあらば、近比安西將軍の職は、
封せられざるべし。必し諸君は用心あらん。姜維が曰く。彼も丈
夫あり。我も丈夫あり。我ちんぞ彼と相とん。汝亦他人の威
て副く。味方の銳氣を失工とあらば、我意をせよ。決せり。まの隨
西て取んとて、諸人諫む。もき入る。自ら先陣に進
けぬ。已に祁山の前に近付ける。た存候より報して曰。祁
山への敵を備て立く。九つある陣屋を造りたり。姜維は
あつこの内、あつも信ぜず。自ら五六騎を引く。山の上の遙に祁
山へのぞきとれば、果として九つある陣屋の勢ひ連く。と

て長蛇のごとく。姜維は、まゝとらま。左右は、ひりひりして、やける。
夏侯覇が云く。一つも違はぬ。此のごとき陣法は、諸葛孔明
あらざる。知のあらざりと思ひ。今鄧艾その妙を得たり。
まが師の下に坐せ。感づく。急ぎ山より下て、やける。魏
の勢を、此のごとく待たせ。れば、我ちの進ん。と
う。是は鄧艾のごとく。蜀の勢の路より生ぜ。と計りて
自ら固く守るものあり。汝亦此のあり。陣を取て、我ち
の旗を、あげ谷の口とせ。守く。毎日兵と百騎を
出。甲と更衣。裳とあらためて。青黄赤白黒五つある旗
職とせ。させて。多勢の籠りたる体とせ。よ。その間、我ち
大軍を引て、ひそる。董亭より出て、南安とせ。と

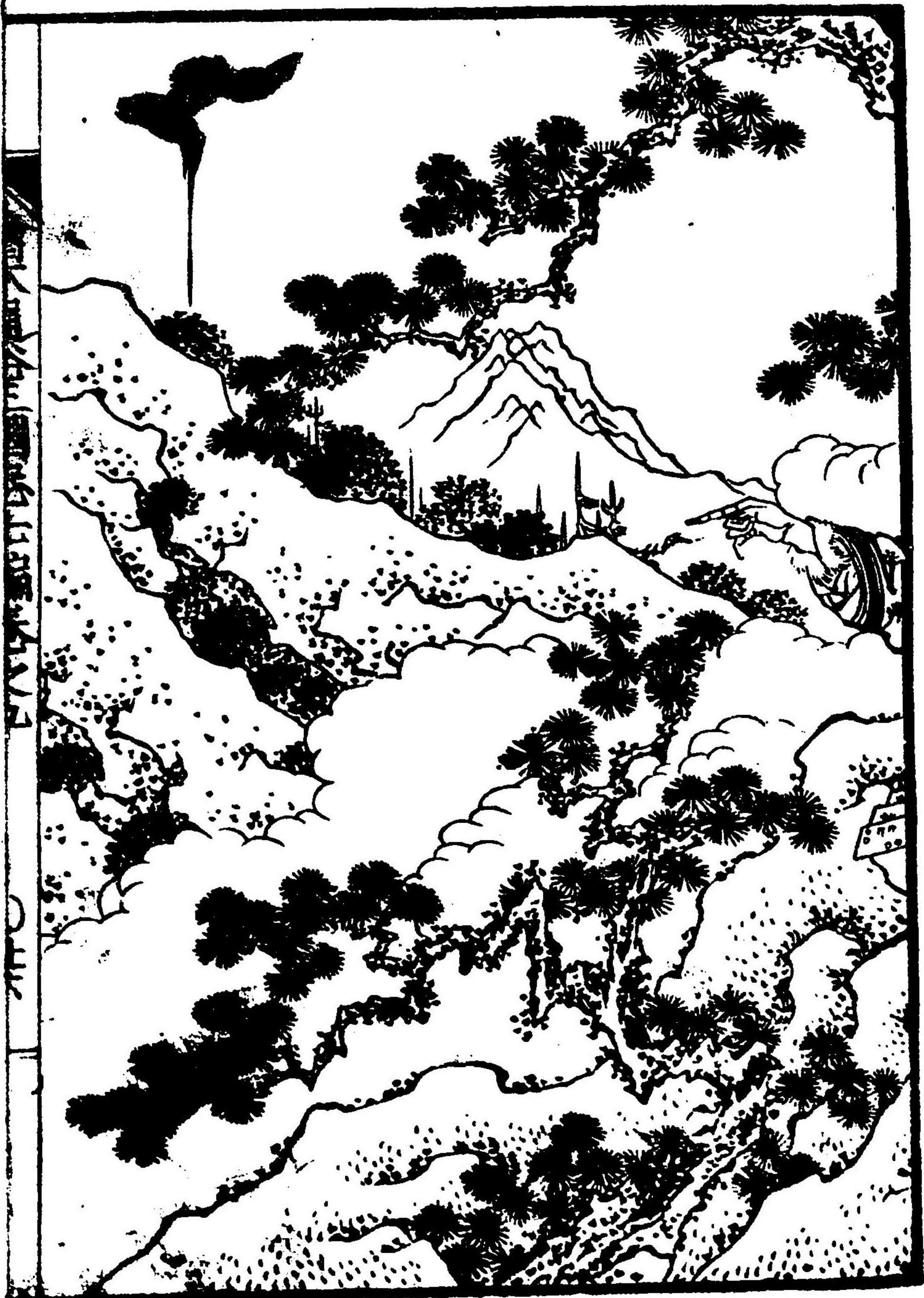
魏の勢ひ連く。と

大将麴素と雷く陣屋と守らせ自ら大軍を引いて董亭より殺奔は此と九鄧艾の蜀の勢の坐たることにて陳泰と祁山の陣を守居たるは日蜀の兵出て戦て一日の内四五度が程を引くは百余騎の勢生来めて或は十里十五里より引回しけり六鄧艾山の上のて遙く蜀の陣をのぞき陳泰はむらひて中けるは姜維はるるは此を居て定て董亭より廻り南安とを念へ今此を守勢かむらがる小勢より毎日旗を更け段々大勢ある体と見えものちり量り大將も士卒も物の用は立のあらじ將軍を引くは一攻せめて是の人必も一鼓を破るべし其のち勝に乗て董亭の路より進み姜維が後とさきよりて尽計

取らざり我又一軍を引いて南安と救ひ武城山に結たる道條あり急ぎ打向けて陣を取らん姜維は是と見らば直に上邦の城をひるらん上邦は二竹の谷あり段谷と号し地狭く路險し伏兵を用べし姜維きたりて苦武城山をあらとて我まの二手の勢を段谷に伏し打破らん姜維は擒まるとし此計の中ありと云けり陳泰はけるは我二十余年の志と守まとも左程は地理とあるし能はざる將軍を令打立し我を引くは敵を破らん鄧艾もあち枚方の精兵を引いて晝夜と分たむ武城山に到り敵いまだとんごりしは長男鄧忠討ち師纂二人はあのかく二万余騎を授けてまの段谷の中

置ましく計て授けて。自ら武城山の上陣と旗を伏
鼓を休鳴と志がめて敵を待去程又姜維の大軍を引董
亭の路とさるぐくと廻り。南安とさしていとぎけれを夏侯
覇馬上まで受けける。南安の近所は武城山といふ山ありも
一是て取へ南安城の勢いと奪べ。但畏く鄧艾計多き
ものあらば兼て用心さるることあらん。姜維が曰く。鄧艾のひと
祁山の陣を守りて我と拒んと何ぞ他の不と守るのん
あらんとく大軍とせよ。武城山は到り先手の勢山止らん
とさるるも。忽然として。一色の鉄砲ひきき鼓を鳴一哄と
造く。まびざりく旗とさるあげ中央は黄なる旗と立て安西
將軍鄧艾と書たり。蜀の勢騰と冷して。志りぞらん。

とさるる山の上より精兵勢いよのりて斬て下る。その鋒あたる
べくら蜀の先陣あへて乱して走けよ。姜維中軍とすて
来救んとさるとた。魏の勢とせよ山の上より姜維大軍
いで心の内よあひける。我孔明の兵法と傳て。天下又及ぶ
ものあらばとあひひよ量らざりき。魏の國又夫のあり我
誓て雌雄を決とんとして。次の日兵を斉く。武城山より
よせけよども。魏の勢一人も山を下らば姜維兵を命とせよ
ぬぐよ悪口せさせ終日守居く暮よまよびけよ。斬て退ん
とさるる。鄧艾見とぬして鼓を鳴一哄と造り斬とす
鉄がひとあひ姜維まきとる。取く回して一軍せんとなん。魏
の勢又志のぬり死めて音のせよ山の上へ攻上らんとなん。



姜維
鄧艾
陣列
遠見
驚感



姜維

大木大石をあげ掛る。雨の降り。是より。志ざら。山下
陣を取。その夜の三更。志のぞろんとす。又山の上。鼓を
打。味を造る。姜維又取。回せ。敵一人も山を下ら。衆
て。志のぞろんと叶ひ。此所。陣屋を作。んと。石と
を。木を伐。せ。又山の上。鼓を打。鐸を鳴。して。山を下
。討。て。蜀の勢。一日。一夜。人馬。疲。して。さん。び。乱。ま。互。よ
み。け。り。騷。動。して。推。死。さ。る。もの。殺。を。志。ら。ん。我。と。た。よ。と
逃。走。る。魏の勢。又。引。て。山。上。り。け。よ。夜。明。て
姜維。車。を。の。り。て。兵。糧。を。と。る。山。の。麓。を。扱。ん。で。陣。屋。を。作
ら。ん。と。さ。る。よ。夜。入。り。て。三更。の。比。鄧。艾。五。百。人。の。精。兵。を
扱。大。炬。を。り。こ。せ。二。手。を。分。て。真。先。よ。と。ぬ。せ。大。軍。跡。を。さ。す。

か。よ。て。山。を。下。り。蜀の陣。火。を。付。て。入。乱。ま。て。夜。の。明。る。ま。で
戦。ひ。さ。り。引。て。山。上。る。姜維。と。ん。ま。り。さ。る。二。三。里。志
り。ぞ。ひ。て。計。を。議。さ。る。又。諸。將。も。黙。然。と。り。け。よ。姜維
が。曰。く。今。鄧。艾。武。城。山。を。守。り。て。味。方。南。安。を。取。と。あ。ら。ん。志
ろ。先。行。て。上。邦。を。取。ん。上。邦。南。安。の。兵。糧。を。あ。め。た。る
不。ち。ろ。是。を。取。ら。南。安。の。け。り。破。ま。ん。と。て。復。侯。霸。と。と
ど。め。て。武。城。山。を。守。ら。せ。自。ら。精。兵。を。引。て。山。越。え。溜。水。の
東。を。渡。り。や。う。や。上。邦。に。近。付。る。辺。の。山。乃。勢。は。險。し。く。
道。條。難。所。と。り。て。ん。の。内。安。ら。り。安。内。者。と。り。て。所
の。名。を。問。ふ。郷。導。官。答。て。曰。く。夫。の。谷。を。段。谷。と。す。し。姜
維。大。ま。ど。ろ。ま。段。谷。と。い。ま。く。一。と。さ。る。ぬ。も。一。此。谷。を。て

大木大石をあげ掛る。雨の降り。是より。志ざら。山下

敵も米穀を断絶せしむべし我らも米穀を断絶せしむべし決せざるはよふ候より告て曰く山の後は馬賊のあびるべし退くは必ず敵の伏撃をてぬ人姜維騰を冷してまうる退くんとせしむ魏大将鄧忠師纂二手に分して討てくは姜維あるは戦ひあつて走りまがひく退きけるるは向より供て造く鄧艾多勢をて斬てかり三方より攻ければ蜀の勢大に破して馬物の具を打棄りて逃るる姜維へ味方が落さん為に踏止めて戦ひ大勢を圍れて已に危きるる夏侯霸一軍を引てませ来り鄧艾と追回れ姜維やうく又圍て出再び祁山より出んとしはけし夏侯霸が曰く祁山の陣へ已に陳泰も取れ味方の大将鮑素も討

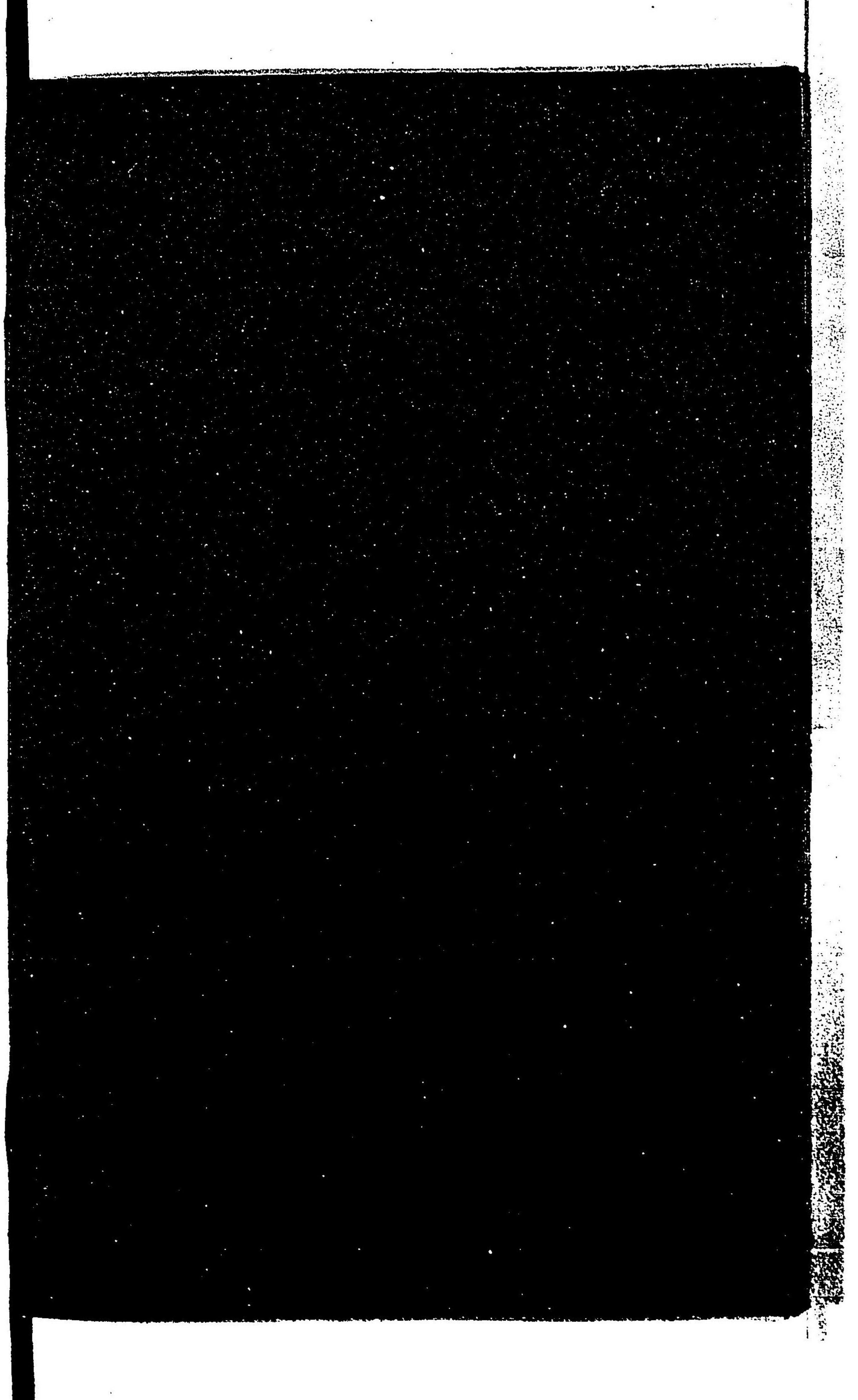
れて敗軍をや漢中まで送りてきたなり陳泰をてて姜維の路をまぎりしる山を越して今走りたる人姜維色をうまむ山を越路をたがひ移り走りけしは鄧艾のまをいよのりて追蒐る姜維まの總軍をまがりてけしはみづから後陣より下りて拒ぎ戦ひけるるは忽然として山の後より一彪の勢殺出はるるは陳泰より大軍を引て路をまぎりし鄧艾と前後よりとりまきしる姜維小勢をてまろも人疲れ馬弱りたるは真中を圍て左に撞右に突くも出る事あなは蜀の邊冠將軍張疑へまらるる漢中をさして引けるが跡は軍ありて姜維をてて危しきみづから百騎を率て取りて回し大勢の中

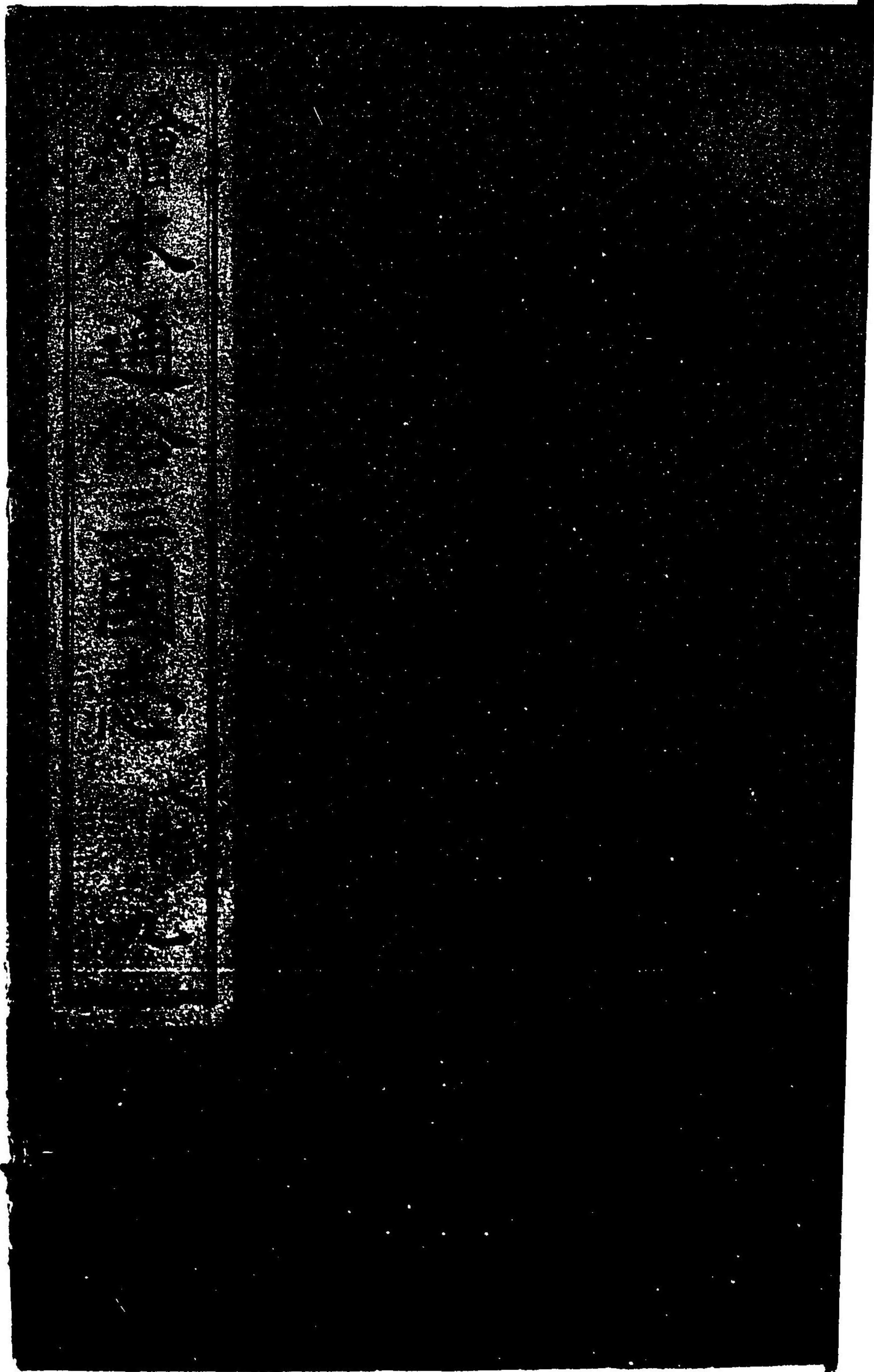
へ射く入る。姜維救の来るとして。力を奮く殺す。殺す。勢を以て手痛く追はせ。張飛を以て久し合せ。敵十方より来れ。雨の降がて。矢を放ちければ。勢を以て。討死して。その身も乱軍の中へ射殺されけり。姜維へその間より。逃れ。漢中へ回。張飛が忠勇より。王事へ死したる志を。あなと。妻子を。あなと。此度蜀の勢親討。子打たるもの多し。罪を。姜維一人へ。假し。けし。姜維を。孔明が。衛亭の。假し。表の上。自ら。後將軍。官を。大將軍の。假し。行。鎮西將軍。胡濟。姜維が。令を受。上。討けるが。その功。一級を。賜。九。終

122

74

28





東本通俗三國志

122
74
33

東 京 圖 書 館

和書門

小說類

二六函

架

七八號

七五冊